

令和4年度第7回理事会議事録

議事録作成者：事務局長 松谷昌典

- 1 日 時：令和5年3月24日（木） 19：00～20：30
- 2 場 所：公益社団法人日本パワーリフティング協会 本部事務局
〒678-0239 兵庫県赤穂市加里屋98-16
- 3 出席者（敬称略、順不同）：
 - 【理事】 古城資久、伊差川浩之、三浦重則、高井隆義、關本正志、田中彰子、花田祥之、実島可斉、杉本好二、菅生桃子
※理事総数：13名、本日の出席理事10名
※理事の太田勇吉、藤谷良弘、寺門浩之は都合により欠席
 - 【監事】 辻 惠、安原 徹
※監事総数：2名、本日の出席監事2名
 - 【陪席】 鈴木 光（アンチ・ドーピング委員長）
二宮正晴（技術委員長）
佐々木陽一（国際副委員長）
松谷昌典（事務局長）

理事の伊差川浩之、三浦重則、高井隆義、關本正志、田中彰子、花田祥之、実島可斉、杉本好二、菅生桃子、監事の辻惠、安原徹は電話会議システムを利用することによりこの会議に出席し、質疑・決議を行った。

- 4 開 会
定刻、古城資久会長（代表理事）が理事会運営規程により議長となり、電話会議システムにより出席者の音声の伝達がスムーズであり、質疑応答に支障がないこと、及び定足数を充足していることを確認したうえで、本理事会を開催する旨を述べ、議案の審議に入った。
- 5 議 長 古城資久
- 6 議 事

第1号議案：2023アジアベンチプレス選手権大会について

本年9月11日至17日アラブ首長国連邦で開催予定であったアジアベンチプレス選手権大会が諸事情により返上された。アジア連盟より開催候補地を探している連絡がなされ、受入国として立候補することが検討された。検討の過程では、きわめて短期間において条件が合致する場所を確保することが必要であるため、佐賀県ジャパンクラシックパワー大会において関係者で協議を行なった。結果、北海道洞爺湖エリアが国際大会候補地として条件が合致することがわかり、また、ホテルおよび会場確保の見込みが立ったことから、候補地とすることが議場に諮られた。審議の結果、出席理事全員一致でアジアベンチプレス選手権大会のホスト国として立候補することが承認された。今後、アジア連盟への連絡を行い、回答を待つこととする。

第2号議案：JPA公認器具の承認

ONI社より申請のなされていた器具類について、技術委員長より受入検査表の結果報告がなされた。検査した器具類は以下のとおり。

- ・ONIコンボラック
- ・ONIパワーリフティングバー、オリンピックシャフト、ハードクローム、ONI068-HC
- ・パワーリフティングバー、オリンピックシャフト、ステンレスSUS630、ONI528
- ・ONIプレート

全ての器具類はJPA基準を満たしており、審議の結果、申請のあったONI社の器具類をJPA公認品とすること出席理事全員一致で承認された。なお、公認日は検査日の3月17日とする。

第3号議案：ジャパンクラシックパワー大会出場標準記録について

サブジュニア・ジュニア部門の大会を高校生大会や学生大会と併催することが困難であることや、別途大会を設定する場合に生ずる国際派遣を見据えた時期的な問題及び、役員確保の面からこの度はオープン部門との併催となっていた。今後は更に出場選手が増大することを見込んで、大会毎に標準記録を見直しする方法が検討された。

審議の結果、今大会の結果をもとにした次回大会の標準記録改正案及び、標準記録年次改訂方針は出席理事全員一致で承認された。なお、アスリート委員会の意見も踏まえ、標準記録の公表は大会終了後1ヶ月以内に発表して次回同大会に適用することとし、標準設定は技術委員長及び担当理事の確認をもって速やかに公表する努力をするものとする。

第4号議案：佐賀県ジャパンクラシックパワー大会役員の諸謝金支給基準について

本年3月17日至19日、佐賀県基山町体育館において開催のジャパンクラシックパワー大会役員等の諸謝金について、基金助成を受けて実施しており、日本スポーツ振興センターの支給基準同様の日額上限1万円

へ変更することが提案された。審議の結果、原案は出席理事全員一致で承認された。

第5号議案：見舞金について

佐賀県ジャパンクラシックパワー大会時に発生した役員の搬送事案について報告がなされ、見舞金を出すことが提案された。審議の結果、金額については会長一任とし、見舞金を出すこと出席理事全員一致で承認された。また、今後の対応について意見交換がなされた。

その他報告：(1) アスリート委員会からの意見について

①大会名称の変更についての賛同表明

全日本パワーリフティング選手権大会（エキップ部門、クラシック部門）及び全日本ベンチプレス選手権大会（エキップ部門、クラシック部門）

②標準記録見直しについて意見

アスリート委員会より、標準記録向上については賛成であるが、以下のような意見がなされた。

- ・標準記録向上の理由について運営上の理由を説明し不満が出ないようにするべき。
- ・サブジュニア、ジュニアの部門をオープン部門と分離開催するべき。
- ・新標準記録の適用には十分な猶予期間を与えるべき。

本件は、第3号議案において合わせて報告し、議案審議の判断材料とした。サブジュニア及びジュニア大会をそれぞれ高校、学生大会に併催することはすでに所轄連盟に照会しており、困難である回答を得ている。別途開催することは、国際派遣までの時期的問題（大会直後の大会実施となることや、他国内外大会とのバッティングが起ること、同状況下で役員確保が困難になった経緯）から、オープンの部門と併催することへ見直した経緯がある。競技会の持続的開催を鑑みて、標準記録を年次見直しとするが、1ヶ月以内の公表を努力することでアスリートの理解を求めるものとする。

(2) 次回理事会


令和5年5月11日（木）19時からWEBにて

以上をもって、電話会議システムを用いた本理事会は、終始異状なく全議案の審議を終了したので、議長は20：30に閉会を宣言した。

上記の議決を明確にするため、出席会長（代表理事）及び監事が次に署名又は記名押印する。

令和5年3月24日

公益社団法人日本パワーリフティング協会理事会

会 長 古城 寛久 
(代表理事)

監 事 辻 恵 

監 事 安原 徹 